

## 社長放談

### 社長の旬は40才!? ～限りなく美しきバトンを～

株式会社 シンカ  
代表取締役社長 野々山 光秋

「社長の旬は40歳!？」このタイトルで“社長放談”を書いたのが今から約14年前、創業後4年目のこのシンカ・タンク「創刊号」でした。

2002年10月号。それを今、改めて読んでいます。

この文章の骨子は「世の中40才ぐらいが社長の旬と言うが、本当の旬とは年齢ではなく、その人にとって様々な条件が整う時を言うのではないか・・・そういう意味では社長の旬は60才でも70才でもあり得ると言うことのほうが正しいと思います。」という自分自身への慰めとも痩せ我慢ともとれる言葉で終始していました。

しかし、結びはもちろん「理念と目標を実現させることを目的として51歳でも起業した」事を強く語っていたものです。最近のデータによりますと、全国の社長の平均年齢は59.2才、社長交代の前代表年齢は平均で67.0才だそうです。

実は私、間もなく満70才になります。そうです、その時が訪れたのです。さまざまなチャレンジをさせてもらい、地域へも可能な限り貢献させて頂いたつもりですが、ここへ来た今、賢明な考え方は「会社は永続させる事に大きな使命がある。その為には仮に自分が健康であったとしても、的確かつ適格なる事業承継を第一優先とすべし。」という結論に到りました。

去る4月11日、弊社、第19期経営方針発表会を行いました。その時私は、全社員の前でこう明言しました。「私のこの1年の最大の仕事は、堅固で確実に渡すことの出来る“限りなく美しきバトン”を磨き上げる事です」と。

「このシンカ・タンク新聞」もお陰様で今月号で164号を超えることが出来ました。そのうち約30回の社長放談を書かせて頂きました。読み返せば約15年間、手前勝手な、まさに“放談”ばかりであったことを、今更ですがお詫び申し上げます。「45億年続く会社を創る!」こう豪語して「成長の原理」をバイブルに邁進してきたつもりですが、そこから見れば起業からの約20年は、ほんの一瞬でしたが、少なくともCINCAの土台までは出来上がった。と自負しています。

まだまだ先は想像出来ないほど長いですが、皆様方への未永いご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げますと共に、失礼ながらこの紙面をお借りし、とりあえずのお礼を申し上げます。

